



入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子！

2019年8月26日

No. 6

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：夢に向かって、主体的に学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成

目指す児童像：《一かしこく一 一たくましく一 一やさしく一》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子

心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやおき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

－ 2学期のスタートにあたって－

《日常生活の体験をもとにした学力向上を目指します！》

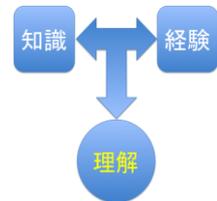
子供たちが全員元気にそろって2学期をスタートしました。保護者、地域の皆様のご協力により、子供たちが事故なく楽しい夏休みを過ごせたことに感謝申し上げます。全国的には、残念なことに、事故や事件に巻き込まれる報道等、子供を取り巻く環境が劣悪になってきています。2学期も、学校・家庭・地域が連携して、入谷小の子供たちが安全に通学し、学校、家庭生活が送れるように、よろしく願いいたします。

さて、今年度の学校経営の重点努力事項の一つとして「確かな学力の育成」を掲げ、児童個々のつまずきに応じた指導をしてきました。その結果、粘り強く学習に取り組んだり疑問をもったりして、意欲的に学習に取り組む姿勢がみられます。また、学力向上に不可欠なことは、日常生活の充実です。「決まった時間に寝起きする」「朝ご飯をしっかりと食べる」「忘れ物をしない」「約束ごとを守る」など、ごく当たり前の生活態度を身に付けることが、より確かな学力の習得に結びつくと思います。毎日の授業で獲得する力を「学力」と呼ぶのであれば、私はこのよりよい生活習慣や学びの態度を「習慣学力」と呼び、学校、家庭でも今以上に意識していかなければならない分野と考えます。日常生活をよりよいものにしていく意識や態度が、高い志をもって学ぶことや学習意欲を高め集中して学ぶ態度に結び付きます。つまり、「日常生活」と「学習意欲や態度」は同じ土俵にあると言えます。

また、頑張っただけで覚えた知識も、時間が経つとどんどん忘れ去ってしまうことがあります。では、せっかく覚えた知識を維持するにはどうしたらよいのでしょうか。それは、子供たちの経験値を上げることだと思います。文字や数字上で学習するだけでなく、そのことが日常生活の中で体験と一致したり活かされたりする活動が大切になってきます。間接経験よりも自分の五感を通しての直接経験や苦労した体験などはなかなか忘れません。

2学期は、学習したことが実生活で活かされ、実生活での疑問が学校の教育活動で解決できることを目指し、学校と家庭、地域の連携をこれまで以上に深めていきたいと考えます。

学力は、一生涯を豊かに生きるための大切な力です。教室で学んだことが子供たちの生きる力を支えるものと信じています。



《2学期の始業式～校長講話より～『夢に向かって取り組もう！』》

2学期の始業式で子供たちに次のことを話しました。(要点のみ抜粋)
「託された夢」ーリオから東京へー

トラック一面に日の丸が広がった。それが誇らしく、怖かった。閉会式は勝者と敗者が入り乱れ、人種も国籍も宗教も解け合って、みんなが笑っていた。敵意や憎悪のない世界。幻ではないのだ。五輪の力、スポーツの力のすさまじさに圧倒された。この夢のような平和が、東京に託されたのだ。雨に消えゆく聖火を見ながら、私は祈った。
どうか4年後も夢の続きが見られますように・・・。



(2016. 8. 23 日刊スポーツより)

私は、このリオ五輪を通じて、「夢をもつことは素晴らしいことだ」とあらためて思いました。そして、夢を諦めないで努力することも素晴らしいこと。諦めたら可能性はゼロ。諦めずに頑張り続ければ可能性は100%に近づきます。東京五輪まで、あと333日。リオ五輪で、メダルを獲得した選手や悔し涙を流した選手、出場できなかった選手たちは、東京五輪に向けて目標を立てて練習に励んでいます。それぞれの選手の夢が叶うようにと私は願い応援したい気持ちです。

さて、皆さんの夢は何ですか。夢をもっていますか。膨らませていますか。どんな夢もすぐに実現できません。夢を持ち続けながら、夢に向かって努力や工夫を重ねることが必要です。2学期の大きな行事の学芸会や持久走大会、町音楽祭は、その途中の段階のようなものです。一つずつ上ることが夢に向かって進むことになります。毎日、毎時間の学習は本当に一歩一歩です。その一歩一歩が、夢に向かっていくことを大切にしていきましょう。



《8月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・

『チャレンジして失敗を恐れるより 何もしないことを恐れろ』

《本田技研工業 創設者 本田 宗一郎》

本田技研工業の創業者である本田宗一郎（1906年～1991年）のモットーのひとつである。本田宗一郎は、町の自動車修理工場での丁稚奉公からスタートし「世界のホンダ」をつくりあげた人物である。彼のこの言葉は、変化の激しい現代にあってますます光り輝いて聞こえてくる。仕事は待っているだけではやってこない。そこからは何も生まれない。失敗を恐れずに試行錯誤を繰り返していくことで、成功をつかむことができる。自信をもてない若者が増えていると言われて久しい。

この言葉にあるように、小学生・中学生のうちから、失敗を恐れずにさまざまなことにチャレンジしていく大切さを学ばせたい。

一般的な傾向として、現代の子供たちは、先に失敗することを考えてしまい、物事にチャレンジせず、楽な方向へ行ったり、何もしなかったりする子供が増えてきていると言われます。

入谷小学校の子供たちが、長い2学期の学校生活において、失敗や間違いを恐れずにたくさんのことにチャレンジして、「自己ベスト」という目標を達成できるように、全教職員で指導・支援していきます。ご家庭においても、お子さんが苦手なことへ意欲的にチャレンジするよう大いに語り合い、励ましてください。

